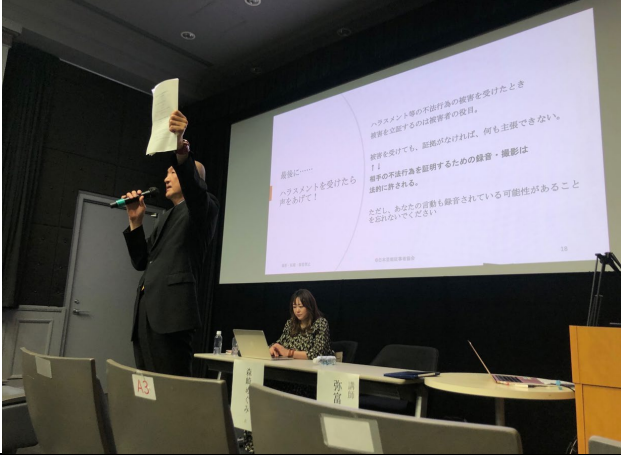


分野	映画
団体名	国立大学法人東京芸術大学大学院映像研究科
補助事業名	映画制作実習（修了制作）上映会に向けたハラスメント研修の実施
具体的な内容	映画専攻では、毎年渋谷の映画館において、有料の修了制作上映会を開催している。昨今の映像業界のハラスメント問題を鑑み、将来映像業界での活躍が期待される学生たちのハラスメント問題への理解を深める研修を専門家を招いて行なった。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	学生および教職員がハラスメントについて共通認識を持つということが第一歩であり、その一歩は踏み出せたのではないかと感じる。今回の講師の方向性（自分が“加害者”にならない方法を学ぶことで、“被害者”になったときに、自分の守り方がわかるようになる。そのために定義を学ぶ）は非常に論理的であり、学生たちが「何がハラスメントになり得るのか」を理解するのに役立った。今後映画制作という集団作業を通して、今回学び得たものを活かしていく。

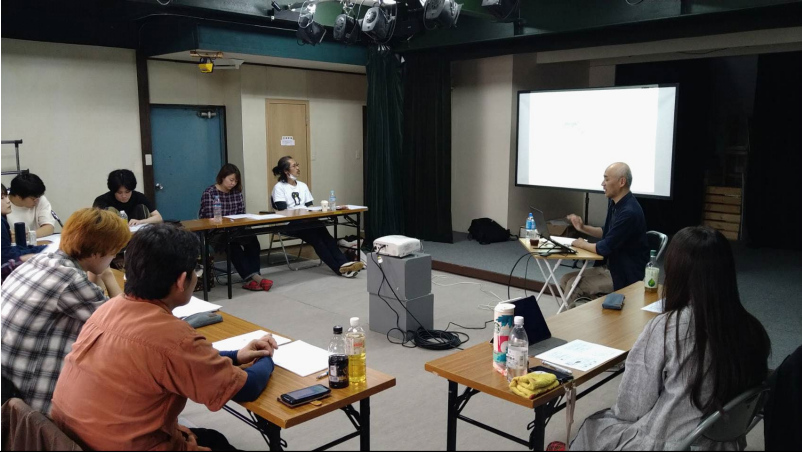
分野	演劇
団体名	譜面絵画
補助事業名	舞台 譜面絵画 vol.15『良いキャンペーン』の制作におけるハラスメント防止を目的としたリスペクト・コミュニケーション研修の実施
具体的な内容	演劇公演を実施するにあたり円滑な事業進行及び関係者の心理的安全を担保するために、ハラスメント防止を目的とした研修講座を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント防止対策の取り組みを実施したことにより、年齢層がバラバラな稽古場において互いにリスペクトを持った状態で稽古の進行を行うことができた。専門家の講習を受けることで、ハラスメントへの対策が座組内でのコミュニケーションを消極的にするのではなく、適切なコミュニケーションを図ることという学びを得ることができた。今回資金の援助を得た上で予算が小規模な我々のような団体でもハラスメント防止対策を実施することができたことは非常に有意義であったと思う。

分野	演劇
団体名	合同会社プランブル
補助事業名	舞台『牢獄の森』の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	舞台『牢獄の森』に関わる作者・演出者・出演者・スタッフ・制作者等が受講する各種ハラスメント（セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなど）の防止を目的とした研修を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント研修を受講することによって、あらためて最新のハラスメントについての情報の更新が可能となっただけでなく、ハラスメントに対する正しい認識を持つことが可能となり相手に対して不快な感情を与えないコミュニケーションを意識するようになり、結果、コミュニケーションの停滞の解消に繋がっておりお互いの価値観や考え方を尊重することの大切さを実感できた。さらにはハラスメントが発生しにくい創作現場の環境構築に繋がった。

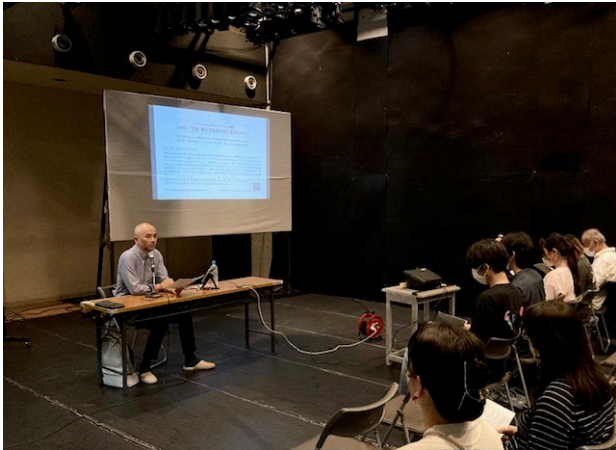
分野	演劇
団体名	ラッパ屋合同会社
補助事業名	ラッパ屋第49回公演(舞台)「七人の墓友」の公演開催におけるハラスメント講習の実施
具体的な内容	ハラスメントに対する正しい知識とその防止策を学び、より良い創造の場となる事を期待して、6月1日(土)に上級ハラスメント対策アドバイザーの講師の方による、約1時間のハラスメント講習をキャスト・スタッフに実施した。講習終了後、不参加者を含む公演関係者に資料を配布した。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメントとその防止策に対する知識は、各々で差があったと思うが、最新情報かつその団体向けにコーディネートされた資料による今回の講習を受けることで、共通認識を持てた事が一番の成果だと思う。講習終了直後から、自身の経験や考え、講習の感想を話す輪が出来ていた。ハラスメント防止の為に大事な「双方向のコミュニケーション」の実践は、「演劇」という創造の場でも非常に大事な実践であると改めて認識できた。

分野	演劇
団体名	劇団あおきりみかん
補助事業名	舞台「今日、母が死んだ」の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	ハラスメント防止研修会の実施。舞台の制作現場において、キャスト・スタッフが、各々また舞台に関わる人々に対してハラスメントを行う事の無い空間となる効果を期待し防止研修会を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント防止研修を実施することにより、舞台に関わるハラスメントの事例について理解する事となった。舞台に関わる人間がハラスメントに対する正しい認識を持つことにより、個人のみでなく全体でハラスメント対策を行う意識を持つ効果を得た。ディスカッション等を含め、舞台に関わる人々同士のコミュニケーションに対する心理的ハードルを下げ、心理的安全性を持って全員が能力を発揮することができる組織となるための大きな効果を得た。

分野	演劇
団体名	白昼夢
補助事業名	舞台『サザレクション』の創作におけるハラスメント予防講習の実施
具体的な内容	舞台『サザレクション』の舞台稽古期間において、白昼夢が、公演関係者全体に対して、ハラスメント予防のために講師を呼び、ハラスメント予防講習を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ふだんバラバラの生活をしていて、ハラスメントについての知識や興味が異なる人たちが、集まって一斉に同じ講習を受けることが出来てよかった。講習の中では座組内での話し合いや感想を共有する時間があり、それぞれ異なる価値観であることを実感できた。講習を受ける前より、他者への意識が広がり、リスペクトを持って接すること、お互いを気遣うこと、十分休息することを意識して創作に臨んでいる。

分野	演劇
団体名	ハトノス
補助事業名	舞台『Pica』の制作におけるハラスメント予防講習の実施
具体的な内容	稽古期間及び本番期間において、各々がリスペクトを持ち合える場を創造する効果を期待し、出演者、演出を対象としたハラスメント予防講習を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	「ハラスメントは一律のルールの下で分類できるものでなく、関係性の中でどこにでも生まれうるものである」という共通認識を稽古場で持ち、違和感を共有することをテーマに稽古を行った。 稽古場の運営面での意見により稽古の進行の修正を行うことができたほか、相乗的に演技・演出面での意見交換も活発に行い、公演の質の向上にもつなげることができた。

分野	演劇
団体名	老若男女未来学園
補助事業名	老若男女未来学園 第三回本公演の創作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	第三回本公演『アワ・マクベス』の舞台稽古期間において、老若男女未来学園が、公演関係者全体に対して、ハラスメントが発生する原因を見つめ直し予防する機会の創造を期待して、講師を呼びハラスメント予防講習を実施した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	初めて創作現場を共にする俳優やスタッフも多くいる中、対等な立場で意見交換を行い、各自の視点から問題点や改善策について深く議論ができた。特に、具体的な事例を用いたディスカッションが印象的で、日常業務における意識改革につながると感じた。講習を通じて、各メンバーの意見を尊重し、多様な視点を取り入れた協力体制を築くことが重要だと学んだので、ハラスメントを未然に防ぐために、オープンなコミュニケーションと信頼関係を深める努力をメンバー全員で継続していきたい。

分野	演劇
団体名	劇団昴一般社団法人
補助事業名	劇団昴公演『広い世界のほとりに』制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	本年秋に予定している『広い世界のほとりに』公演実施に関してその稽古期間中制作過程において作品を共に創るスタッフ、キャスト双方においてハラスメント行為の中身を理解するために講師の方の講義を劇団員が受講した。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	社会と舞台芸術界のハラスメント問題は、業界全体の深刻な事態であるということを、全体の認識として共有し、その上で、立場の異なるスタッフ・キャストがともにハラスメント行為がいかなる問題を生み出しているかという問題点を、講師から学び、作品創りにむけ相互で、相手に対して上下ではなく左右の尊重の関係性を持って、関係性を構築していくことが、より良い作品を創り上げる上で重要であると、認識しました。今後も、まず対話し、劇団の中で平等な立場で、開かれた劇団内の環境整備をする必要があると理解しました。

分野	演劇
団体名	合同会社いった
補助事業名	舞台『CEREMONY～わたしたちのカミアソビ～』の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	稽古開始初日に当たる 6 月 24 日に、外部講師をリモートでお招きし、会場とオンライン併用で研修を行った。対象者は稽古に参加する出演者並びに演出家、制作メンバー。また、研修にあたって本公演のハラスメントポリシーのガイドラインを定めた。創作期間中では、稽古場内のハラスメントだけでなく、作品が観客に与えるハラスメントについても考慮し創作した。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	外部講師にリモートでのハラスメント講習を実施していただき、その中で、表現者が作品を通して観客に与えるハラスメントについても気づきを得て、そのことについても表現者同士が遠慮なく懸念を表明できる創作環境を整備できました。また、実際の作品の中でも『暴力』をテーマに取り扱うシーンがあり、ハラスメント研修を受けたことによって『暴力』という言葉への解像度が高まり、より深い創作へと転化できるという、思わぬ副産物がありました。

分野	演劇
団体名	株式会社うりんこ
補助事業名	舞台『カドや食堂のなぞなぞ』の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	より良い舞台を安心して制作するため、お芝居という舞台創作活動において起こりうる可能性のあるハラスメントについて、スタッフと役者が学ぶ場をつくった。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	今回、舞台創作活動に特化したハラスメント講習会を実施できたことで、参加者が不安に感じていた「どのようなことがハラスメントになりえるのか」「グレーゾーン」という事を学ぶことができ、安心感が増えたという言葉をもらいました。また、ハラスメントが起こりにくい環境づくりについても皆で考え、共有することができました。グループワーク等も実施して頂き、人の受け取り方の多様性も学びました。今回の事で普段のコミュニケーションの大切さを皆が実感し、日々の挨拶を大切にするようになりました。このような講習会を継続していき、よりよい創造活動が出来たらと思います。

分野	演劇
団体名	片岡自動車工業
補助事業名	片岡自動車工業 新人お披露目公演「そして下北沢で我々は」の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	演劇の稽古序盤にハラスメント対策アドバイザーをお招きし、出演者やスタッフに向けて講義を行なった。演出と出演者、団体とゲストなど様々な立場の中、不安のない稽古環境の実現に向けて取り組んだ。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメントになる基準値が共通認識で確認できたことにより、曖昧な点が明確になり稽古環境がより良くなったと思います。また劇団員それぞれが違う現場で活動するときも、この研修のおかげで判断がしやすくなり誰かが傷つく前に防げるのではないかとことを学びました。今回の研修で、身近に起こりうるハラスメントの基準値のことを知らない人はまだまだ多く勘違いも多いことを知りました。より広まるようにこの知識を役立てたいです。

分野	演劇
団体名	公益財団法人豊橋文化振興財団
補助事業名	「高校生と創る演劇」新作公演の制作におけるコミュニケーションデザイン講習の実施
具体的な内容	本事業の稽古開始前に、コミュニケーションデザインディレクターを招き、演出家、演出助手等のカンパニースタッフ、高校生参加者、劇場職員と一緒に、コミュニケーションデザインの講習を受講した。その後、コミュニケーションデザインディレクターは演出家によるワークショップに帯同し、講習の内容を踏まえた内容かを確認し必要に応じたアドバイスを行った。大人と未成年者という年齢差による権力勾配や経験値の違いから発生しうるコミュニケーションの菌目菌吾ならびにそこから生じるハラスメントを未然に防ぐことや、ハラスメントの基礎知識を得ることで互いがリスペクトし合えるクリエーションの場を目指した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	今回の取り組みでは、基礎知識を学ぶことに加えて、ディスカッションを交える内容とした。そのことにより、自ら状況を想像し、コミュニケーションの齟齬を減らすための対応策を考えるきっかけとなった。また、高校生参加者が意見を出し合い、より意見の言いやすい場にするためのルールを作成し、今後のクリエーションにおける全員の共通認識を構築することができた。

分野	演劇
団体名	果てとチーク
補助事業名	果てとチーク・あらためて公演『はやくぜんぶおわってしまえ』稽古・本番期間におけるハラスメント講習実施及び外部相談窓口配置
具体的な内容	稽古初期にハラスメント講習を行い、ハラスメント防止に関するルールなどをメンバーで十分に理解の上共有した。また稽古期間中及びその前後に継続して外部相談窓口を設置し、心理的安全性を保てる創作環境を整えた。 4/27 果てとチーク『はやくぜんぶおわってしまえ』 リスペクトコミュニケーション講習レポート 団体として、リスペクトコミュニケーション講習をお願いするのは、今回で3回目だが、毎度扱うケースなど内容がアップデートされており興味深い。 本公演の講習においては特に、SOGI ハラスメントを取り上げていただいたこと、ディスカッションパートに丁寧に時間を取って頂いたことがよかったように思う。 SOGI ハラスメントは性的少数者だけでなく、シスジェンダー異性愛者にも関係する比較的新しいハラスメントの種類である。今回の作品内容にも非常に関係するため、本講習で定義や具体的な事例を確認したことで、参加メンバーの前提知識とすることができた。 ケーススタディをメインとしたディスカッションパートでは、“誰かを故意に傷つけないこと”は参加メンバー全員のベースとして確認すると共に、予期せぬタイミングで傷つけてしまった場合にどうするか、あるいは圧倒的な権力構造の中で起きてしまった出来事にどう対応するかなど、様々な可能性に考えを巡らせ対話した。各々が経験した稽古場での難しい事案なども共有し、主宰の場合、劇団員の場合、客演の場合、スタッフの場合など異なる立場からの対応策を、時間をかけて話し合った。取り分け、普段あまりコミュニケーションのない俳優とスタッフが、お互いの経験を共有する様子は、とても豊かだった。 ハラスメントの訴えが生じた際、最適解はケースバイケースだが、講師から御説明いただいた判断のポイントを確実に押さえ、主宰として適切に対処したいと考えた。委縮せずに発言し、豊かな創作を行うために必要なことを、この講習内に限らず、メンバーと都度検討しながら進めたいと、気持ちを新たにできる機会であった。 2024年9月11日 果てとチーク主宰 升味加羅
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	今回のハラスメント対策の取り組みを行ったことで、基本的なリスペクトコミュニケーションの前提は勿論、作品内でも扱うSOGI ハラや、フリーランスのアーティストとして知るべき新法の内容など、幅広くテーマを扱って頂き、本公演のみならず、各人の今後の活動にも役立つ知識を共有することができた。創作の場にも安心感が生まれ、活発な意見交換ができた。

分野	演劇
団体名	かるがも団地
補助事業名	舞台 MITAKA "Next" Selection 25th／かるがも団地第9回本公演『三ノ輪の三姉妹』の制作におけるハラスメント防止研修の実施、専門家によるガイドライン監修・相談窓口配置
具体的な内容	・演劇公演の稽古初期に、劇団員・出演者・スタッフに対して専門家によるハラスメント防止研修を実施した。稽古場や劇場にて、パワーハラスメント・セクシャルハラスメントをはじめとするあらゆる加害が起こることを防止する目的。 ・劇団が作成したハラスメント防止ガイドライン（劇団員・出演者・スタッフに適用）に対し、専門家からの監修を受け、追記・修正を行った。 ・稽古開始から公演終了まで、公演参加者の相談窓口として専門家を配置した。 公演関係者の心理的安全の確保、何か問題が起きた際の迅速かつ適切な対応が目的。 【レポート】 舞台 MITAKA "Next" Selection 25th／かるがも団地第9回本公演『三ノ輪の三姉妹』の制作におけるハラスメント防止研修の実施、専門家によるガイドライン監修・相談窓口配置 ■取組① ハラスメント防止対策講習 稽古開始前に専門家を招いてハラスメント防止対策講習を実施した。講習内では、ハラスメントについての基本的な知識から、ハラスメントのない創作環境がもたらす利点などについて触れられた。終盤には参加者から講師に積極的に質問が寄せられた。 この講習により参加者同士のハラスメント防止に対する意識を高め、安全な稽古場運営をしていこうという共通認識を作ることができたと感じている。 ■取組② 専門家によるガイドライン監修 当団体では今まで自学によりガイドラインを策定し、公演参加者と共有してきた。それを専門家の視点から監修してもらうことで、より公演参加者にとって信頼に足るものにする事ができたと感じている。 ■取組③ 専門家による相談窓口設置 今まで公演参加者の相談窓口は「劇団員」（劇団員が閲覧する匿名相談フォーム含）か「外部窓口」のみとなっていた。今公演ではそれに加え専門家の相談窓口を設置した。結果として今回の公演では利用はなかったが、専門家の相談窓口の存在は参加者の心理的安全性の向上につながったと感じている。 ■助成金の支援を受けて 助成金の支援を受けて、今まで予算の都合から実施できていなかった専門家に依頼してのハラスメント対策の取組を実施することができた。 小規模な団体は座組全体に目が行き届く利点があるのに対し、閉鎖的になってしまう懸念もある。当団体は活動拡大型に入ろうとしており、客観的なハラスメント防止対策の知見が不可欠だと感じていた。そのようなタイミングで今回のような取組ができたことは非常に有意義であった。 令和6年9月30日 かるがも団地 主宰 藤田恭輔
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	これまで公演参加者に向けて個々にハラスメント講習会の受講を推奨していたが、座組に向けた質疑応答付きの講習会を行なっていただいたことにより、劇団員を含む公演参加者内の不安を低減させることができた。 また、これまで独自に策定していたハラスメント防止ガイドラインを外部から添削していただいたことにより、自分たちにこれまでになかった視点からガイドラインを見直すことができた。

分野	演劇
団体名	有限会社劇団朋友
補助事業名	舞台「カラフル（仮題）」の制作現場および稽古期間におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	専門家講師による講習会を実施し、制作団体である劇団構成員と社会とのかかわり方や、制作現場でのハラスメント防止の対策を学び、実行した。互いに「年齢・性別・心身の状態」等を理解し共生しながらより良い創作活動の現場になることを期待し行った。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	互いを理解し「尊敬」ではなく「尊重」することが、ハラスメント防止対策としてとても大切であることを学びました。コミュニケーションの作法として、まずは相手の話をよく聞く！「傾聴」。ハラスメントをしている人を正そうとするのではなく「少し距離をとる」という対策も有効的であることなど、心がけ次第で実行出来るやり方を学べ、気張らず防止対策に取り組めるようになった。

分野	演劇
団体名	株式会社勝慶
補助事業名	舞台「あれから」の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	舞台『あれから』に携わる出演者、スタッフ、制作者らを対象に、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなど、各種ハラスメントの防止を目的とした研修を実施し、ハラスメントの相談窓口を設置いたしました。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント防止研修により、演者やスタッフの認識が深まりました。さらに、窓口設置により早期発見と対応が可能となり、相談体制の存在自体が予防効果を発揮しました。関係者が安心して相談できる環境が整ったことで、ハラスメント行為が未然に防がれ、問題が起こりにくい職場環境の形成に寄与しました。結果として、全員が安心して創作活動に集中でき、公演の質向上にもつながりました。

分野	映画
団体名	株式会社角川大映スタジオ
補助事業名	劇場用映画の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	専門家を撮影所に招き、1時間の講義を実施。作品の製作・撮影において、スタッフ同士がストレス無く円滑に業務を遂行できることを目的とし、ハラスメント違反が想定されるシチュエーションに対して、参加者とスピーカーのディスカッション形式で行った。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	撮影現場において、1つ1つの言動に他者への配慮と思いやりを感じられた。特に各部門の上長がより意識高く部下の対応にあたっている。職人気質な職場環境であるがハラスメント意識の向上は日々感じる。今後もこの流れを途切れさせず健全な職場環境維持の為に継続していきたい。

分野	映画
団体名	株式会社ダブ
補助事業名	英組映画制作におけるハラスメント防止研修の実施
具体的な内容	映画制作現場のクランクイン前に、講師を招きリスペクトトレーニングを実施。ハラスメント防止を前提課題とし、さらに全員が尊重し合う関係性である事を再認識する目的としての座学・ディスカッションを行った。 リスペクトトレーニングレポート 株式会社ダブ 代表取締役 宇田川寧 まず会場の配置について、講義形式で会場の前方に講師の方が立ち、資料が映し出されたモニターが設置された。参加スタッフは、講師の方に体を向けている姿勢で着席した。トレーニング中に講師の方から発言を促されることがあるということで、各スタッフは周囲に話ができるスタッフがいるように、着席した。 次に内容について、初めに「そもそもリスペクトトレーニングとは何であるか」の講義から始まった。「リスペクト」とは何か、参加スタッフ同士で話し合う時間が設けられ、さまざまな意見が出た。敬意・配慮など表現は多様なれど、相手方を思い遣った行動を目指すことが「リスペクトトレーニング」の命題ということだった。続いて、スライドに映し出された例をもとに、どういった点で「リスペクト」に欠けているか、どういった点を改善すべきかについて参加スタッフ間で話し合った。出された例は、上司が部下に対して指摘している様子をイラストで描いていた。その例において問題となったのは、“言い方や表情”だった。上司が部下に対してミスを指摘することは無論当然のことだが、過剰な怒鳴り 口調や部下本人の人格を否定するような表現は、「リスペクト」に欠けている、ということだった。またそういった場面に直面したときどう行動すべきかについて、参加スタッフの何名かが指名されて発言した。その発言の中には、上司側の意見もあった。それは、過剰な物言いをしてしまったときは撮影終了後などにフォローを入れるというものや、「なぜ？」と理由を聞くことの危うさについてなどだった。後者について、部下のミスを指摘する際に「なぜ出来ないのか」等、理由を責め立てる上司がいるが、この質問は無意味である、というものだった。なぜなら、この質問は答えのない問いであり強く部下に対してプレッシャーを与えてしまう指摘方法だからである。こういったディスカッションを通して、参加スタッフ達は実際に体験ないし見聞きしたハラスメント事例も知ること、意見を交換しあった。最後に、リスペクトトレーニングと撮影現場の両立の難しさについて話した。前段のような例をわかっていてもなお、忙殺される日々や連日の厳しいスケジュールにより、予期せぬハラスメントが起きてしまうのが現状の撮影現場であるとした。そしてこの状況が問題であることを各部署が自覚し、このトレーニングの内容を意識することで、少しずつ働きやすい環境を目指すとして締め括った。
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	リスペクトトレーニングを実施した事により、ハラスメントはもちろん、互いへの尊重・適切なコミュニケーションへの意識を、参加者があらためて考える事ができたと感じる。知識のインプットだけでなく、現場を想定した事例をもとに参加者自身が「この場合どうするか？」を考え発言する場が設けられ、受け身ではられない研修内容のため、実際の現場でも積極的な相手へのフォローやコミュニケーションが見受けられるのは、研修の効果と感じる。

分野	演劇
団体名	演劇ユニット鵜的
補助事業名	演劇ユニット鵜的第 18 回公演「おまえの血は汚れているか」におけるハラスメント予防講習会の実施、ならびに同公演の稽古期間から本番期間における外部専門家によるハラスメント相談窓口の設置
具体的な内容	舞台作品『おまえの血は汚れているか』稽古初日に専門家を講師に招き、ハラスメント予防講習会を実施した。また稽古期間中から本番期間まで、公演関係者がハラスメントを受けたのではないかと受けとめた事案、あるいは第三者から見てハラスメントではないかと疑われる事案について、劇団内に相談窓口、ならびに専門家による外部相談窓口を設けて対応した。これらにより関係者の心理的安全性が高まり、作品に対して安心して取り組む環境が醸成されることを期待して行った。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	講習会の実施により、参加者のハラスメント予防の意識が高まり、抑止効果があった。また、ある参加者からは別現場でハラスメントを受けた際に相談窓口の設置や対応に関しての説明がなく自分で対処するしかなかった、今回は講習会、相談窓口の設置、対応の仕方を説明していたおかげで、安心して稽古と本番に取り組めたとの話を受けた。相談窓口への本公演における稽古、本番に関する相談件数は0件だった（本公演に関わらない私的な相談が1件あった）。

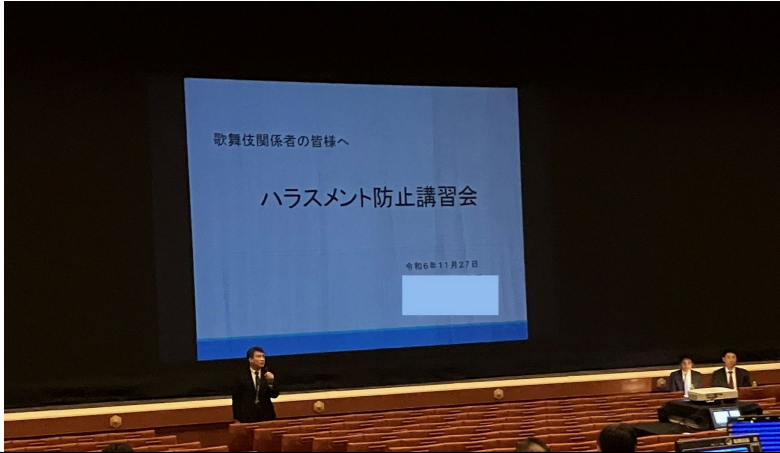
分野	音楽・演劇
団体名	公益財団法人ニッセイ文化振興財団
補助事業名	「日生劇場ファミリーフェスティバル 2024」事業におけるハラスメント防止対策の取組
具体的な内容	日生劇場が制作・主催する3 演目の公演において、制作・稽古・上演環境における出演者及びスタッフ間のハラスメントを防止するために以下 3 点の取組を行った。 ①ハラスメント防止ガイドラインの策定、周知及び遵守の呼びかけ ②ハラスメント防止研修の実施 ③ハラスメント相談・通報窓口の設置（内部窓口及び外部委託窓口）  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	昨今、急速に進む業界における防止対策の拡充に対応し、当劇場でも今年度より取組を開始した。ガイドラインによって主催・制作団体である我々が何をもってハラスメントとするかを明示した点、研修を各演目の創作初期に行ったことで創作過程において各自が相互に尊重し合うコミュニケーションの土壌が生まれた点が、特に参加した出演者・スタッフからも評価された。また参加者間の良質なコミュニケーションの促進は、作品の質を向上にも寄与した。

分野	演劇
団体名	東宝株式会社 エンタテインメントユニット演劇本部演劇部
補助事業名	演劇／ミュージカル8公演の稽古場におけるハラスメント防止研修の実施
具体的な内容	稽古開始する弊社製作公演の稽古場にて出演者・スタッフを対象に、ハラスメントのない風通しの良い稽古場で共創できるよう、リスペクト・コミュニケーションを実施した。ハラスメントの通報・相談窓口の役割、利用方法についても説明した。  
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	2023 年から継続して研修を行っているため、他カンパニーで研修を受けたことのある人・ない人での意識のばらつきがあったが、カンパニー全員で同じ話を聞き、意見を交換することによって同じ意識を持つことができた。これにより稽古～本番に、安全な創造環境でそれぞれの力を発揮していこうという雰囲気各カンパニーで生まれた。現時点で研修後のハラスメント事案は確認されておらず、安心安全な創造環境が保たれている手ごたえを感じており、引き続き研修を継続していきたい。

分野	演劇
団体名	株式会社momocan
補助事業名	舞台『MACBETH SC』の制作におけるハラスメント予防研修の実施
具体的な内容	初回研修…公認心理師・臨床心理士による研修。公演に参加するキャスト・スタッフでハラスメント予防に関する認識を同じくすることで、ハラスメント行為を抑止する効果をもたらした。 終演後フィードバック面談…ハラスメント予防研修を行ったことで、創作に良い影響がもたらされているか効果測定を行った。 Casual Meets Shakespeare『MACBETH SC』 ハラスメント予防研修 レポート 株式会社 momocan 代表取締役 半田桃子 文責 中尾莉久 【概要】 日時：2024 年 8 月下旬 場所：都内 稽古場 参加者：キャスト 32 名、スタッフ 5 名（キャスト兼任 2 名） 【詳細】 事前に、今回のカンパニーの特徴として、 ・20 代～30 代前半の若手俳優が多いこと ・原作もの、所謂 2.5 次元舞台を主な活躍の場とする俳優が多いこと ・アクティングやアクションに関して、出演者間での指導になる場合があること の 3 点があげられていた。セーフティな稽古進行のため、特にキャスト間での不安要素を減らせるように対話を中心とした研修となった。研修資料を基に、臨床心理士によるハラスメントに関する講義と参加者でのグループ対話の構成で進行了。 まず、自己紹介も兼ねてカンパニーメンバー各自のハラスメントへの認識や関心、今までの経験を共有する時間を設けた。次にハラスメントの定義や法律についての講義を受けた。その後、4～5 人ずつのグループに分かれ、ハラスメントについて各自で疑問や意見を出し合い、意見交換を行った。 ・どこからハラスメントなのか、何を嫌と思うかは人によって異なる。相手がどう思うか考えられる余裕を持ちたい。 ・事前にハラスメント予防研修を実施していた劇団でも、ハラスメント問題が起こっている事実がある。研修を受講したから OK ではなく、いつでも誰でも加害者になる可能性があることを頭の片隅においておくことが重要。
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	稽古場を良い状態に保つ努力は各個人が以前から行っていたが、それぞれのハラスメント予防に関する経験や考えを共有し、カンパニーとしての方針が明確化された。稽古から本番までの期間において、演出家や演出助手、主催者サイドが自身の言動を省みるタイミングを各々で持つことが出来た。公演終了後、演出家・演出助手・制作・臨床心理士で振り返りミーティングを行い、ハラスメントを起こさない環境について今後できることを話し合った。

分野	演劇
団体名	一般社団法人風琴工房
補助事業名	舞台『神話、夜の果ての』稽古期間におけるハラスメント研修及び定期的なヒアリングと常駐するハラスメント対策担当者による俳優・スタッフのメンタルケア
具体的な内容	稽古がはじまるタイミングでハラスメント講習を実施、また稽古場に10日に一回程度来てヒアリングを行った。ハラスメント講習の講師とは別に、ハラスメント担当者を常駐させ、講師と連携しながら、稽古場の注視、記録、俳優・スタッフのメンタルケアを行った。俳優・スタッフ・マネジメント含めた人間関係を円滑に進めることで、舞台のクオリティもあげると同時に参加した人たちのハラスメントへの意識の向上が他現場へも波及する効果があった。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	稽古初期に実施したハラスメント講習を俳優、スタッフ、俳優の所属する事務所とも共有したことで、稽古場内でのハラスメントは起こらず、非常に穏やかに推移した。稽古場起因ではない問題でメンタルの不調を訴えた俳優がいた際、稽古場常駐のスタッフと講師が連携を取り、無事、公演を務めることができた。また所属事務所の方も出席してくれたことで、ハラスメント関係だけではなくコミュニケーションをスムーズに行うことができた。

分野	演劇
団体名	公益財団法人メニコン芸術文化記念財団
補助事業名	メニコン シアターAoi 2024年度自主製作演劇公演におけるハラスメント防止対策の取組
具体的な内容	稽古の初期段階において、ハラスメント研修の講師が公演関係者に対して、安心安全な創作環境を実現するために必要な考え方や知識を伝える機会としてハラスメント研修を実施することに加え、ハラスメント防止ガイドラインを策定して公演関係者に共有した。そして、万が一ハラスメント等の事案が発生した場合に備えて、外部相談窓口も設けた。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	公演関係者全てを対象としたハラスメント研修を実施したことで、ハラスメントのない創作環境のために必要な知識や心がけを、全体で共有することができた。また、ハラスメント防止ガイドラインを作成し全体に共有することで、座組内での関係性づくりの基準を全員が常に共有できていることで安心感につながり、ハラスメントやその火種となるような事案が起こることなく、非常に風通しの良い創作環境を実現することができた。

分野	歌舞伎
団体名	松竹株式会社
補助事業名	歌舞伎座「十二月大歌舞伎」 製作期間における俳優・演奏家向けハラスメント防止講習会の実施
具体的な内容	「十二月大歌舞伎」公演に出演の歌舞伎俳優や演奏家などを対象に、外部専門家（弁護士）によるハラスメント防止講習会（対面集合型）を実施。ハラスメントの定義・種類や一般に定められる認定基準のほか、ハラスメントに該当する具体例や裁判例、ハラスメントがもたらすリスクや代償、ハラスメントを防ぐための心構え、留意事項などを弁護士に解説、ご講義いただいた。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	「芸」の世界では時に「厳しい指導」も不可避であり、また師匠と弟子が生活や行動を長い期間（時間）共にすることも多い中で、「指導/研鑽」と、その域を超えた「ハラスメント」との境界や、具体的なハラスメント事例などの理解を深めていただけた意義は大きいものと思料。参加者からもこれまで同様の講習を受けた機会がなく大変有意義であった旨の感想が多々聞かれたことから、有効な施策であったものとする。

分野	演劇
団体名	maars inc.
補助事業名	舞台『夫婦』稽古期間における専門家Environment Managerの配置
具体的な内容	稽古空間の安全性確保を目的として、カンパニーに中立な立場の人を「Environment Manager(EM)」と名付け、EM が設置した 1on1（面談）で出演者・スタッフの現状をヒアリング、その際に抱えている疑問や解消したい環境的課題があればその改善を EM が指揮し、それぞれが気持ちよく稽古場に参加できる環境を整えた。EMは、稽古における人間関係の問題の解消・解決の手助けに取り組んだ。なお、EM は一般企業でピープルマネジメントの経験が 10 年以上ある人が担い、常に客観的な立場で環境を整えるように務めた。取り組み内容：定常的（2 週間に 1 回）に、EM が公演関係者に対して、安全な稽古環境の確保と健全な人間関係の構築、それによるチームパフォーマンスの最大化を目指して面談を行い、環境の改善に向けて制作者側と俳優側との意向を擦り合わせ、改善すべきところは双方に対して指導や誘導を行った。定常の面談以外にも要請があった場合には都度メール等での相談も受付、迅速な対応を行った。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	主に俳優が抱える創作現場での不安や懸念の解消に大きな影響があった。不安を解消する機会を定常的に持つことで、環境に関する心配事をどこに相談したらよいかの窓口が明確になり、心理的安全性を担保された。それにより創作自体への集中が高くなり、結果として作品のクオリティの向上につながった。

分野	漫才
団体名	パップコーン
補助事業名	ライブ「パップコーンネタライブ」の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	12月公演のライブ「パップコーンネタライブ」に関わる出演者、スタッフ、制作者らを対象にセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなど、各種ハラスメントの節を目的とした研修を実施し、ハラスメントの相談窓口を設置いたしました。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント防止研修により、演者やスタッフの認識が深まりました。さらに、窓口設置により早期発見と対応が可能となり、相談体制の存在自体が予防効果を発揮しました。関係者が安心して相談できる環境が整ったことで、ハラスメント行為が未然に防がれ、問題が起こりにくい職場環境の形成に寄与しました。結果として、全員が安心して創作活動に集中でき、公演の質向上にもつながりました。

分野	演劇
団体名	一般社団法人グランツ
補助事業名	舞台第5 回グランツプロデュース公演「インデペンデント・クロニクル」「グレイテスト・笑マンⅡ」の制作におけるハラスメント研修の実施
具体的な内容	舞台第5 回グランツプロデュース公演「インデペンデント・クロニクル」「グレイテスト・笑マンⅡ」の制作におけるハラスメント研修の実施制作開始時において、当事業の出演者及びメインスタッフに対して、本制作中及び本番期間における、他者へのリスペクトの意識、法におけるハラスメント防止の遵守、もってしてより安全で安心できる制作現場を創り、より良い作品作りができる事を期待して、本研修を行った。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	各関係者が、他者へのリスペクトの意識を高め、創作過程における自分の役割、他者の役割、その相乗効果をより認識した。また創作現場外でおこりうるハラスメントについても学びを深め、より個々人の行動に対して、創作上の責任ある立場を再認識できた。もって、より良い公演を実施できた。

分野	演劇
団体名	公益財団法人かすがい市民文化財団
補助事業名	舞台「演劇×自分史 2024」新作公演の創作における、リスペクト・コミュニケーション研修の実施・相談窓口設置
具体的な内容	舞台「演劇×自分史」は、市民参加型の創作公演である。ワークショップに参加した人々の自分史をもとに、演出家が創作し、有料公演を実施した。多様な市民が参加する作品は、一緒に創作する相手へのモラルが問われる。そのためにも事前にガイドラインを配布し、ハラスメント防止対策の専門家によるレクチャーを市民に対して行った。また、ハラスメントを未然に防ぐためにも、事業担当者が専門家にアドバイスを求める相談窓口を設置し、健全な創作環境を担保した。また窓口があることを市民に伝えることによって、ハラスメント抑止効果となった。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	総勢46 名による大所帯の創作ワークショップを28 回行い、演劇公演を創った。市民同士の「良かれと思って」行うアドバイスが相手にプレッシャーを与えたり、意思疎通ができない芝居相手への不満が噴出する場面もあった。その際には、改めて研修で学んだことを参加者に伝え、声のかけ方を見直してもらったり、資料を再度読んでもらうことで相手を慮ったりする場面が見られた。最終的には公演と一緒に作った仲間として、お互いを尊重しあえた。

分野	舞台芸術
団体名	一般社団法人KYOTO EXPERIMENT
補助事業名	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2024 におけるハラスメント防止ガイドライン策定に向けたリサーチおよびハラスメント研修の実施
具体的な内容	1. ガイドライン策定に向けた事前聞き取り調査 芸術祭準備期間中に、実行委員会を構成する各団体やスタッフ、ディレクターにインタビューを行い、ハラスメント防止に関する要望を収集し、ガイドライン策定のための検討材料を整えた。 2. スタッフ対象のハラスメント防止対策研修 芸術祭開催前に、スタッフ、インターン、ディレクターを対象に研修を実施。ハラスメントのない組織づくりやコミュニケーションのあり方について啓発した。 3. ハラスメント発生時の連絡体系とサポート体制の構築 芸術祭開催1ヶ月前までに、ハラスメント事案が発生した場合に迅速に対応できる連絡体制を整備し、スタッフ、インターン、ボランティアに周知した。 4. 芸術祭期間中の外部相談員の設置 芸術祭開催1ヶ月前から会期末の約3ヶ月間（9～11月）、スタッフ、インターン、ボランティアが利用できる相談窓口を設置した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	各団体の現状の取り組みやスタッフの所感、気になる点を聞き取った結果、KYOTO EXPERIMENT における関係性や今後の課題が具体的に明らかになった。研修をワークショップ形式で行ったことで、ハラスメントの背景にあるコミュニケーションの許容度や職場ルールの捉え方の違いを認識する機会となった。また、芸術祭期間中の相談窓口設置を周知したことで、事務局がハラスメント防止に積極的に取り組んでいる姿勢を示すことができた。

分野	演劇
団体名	鯨椅子project
補助事業名	鯨椅子project #13 舞台「十六夜、踊り字の舞う」の制作におけるハラスメント防止研修の実施、相談窓口配置及び稽古期間等の専門家の配置
具体的な内容	創作の場面で、演出やプロデューサーからの出演者やスタッフに対して、ハラスメントを行わないように、また、過度なハラスメントへの配慮によって本来必要なディスカッションや挑戦が出来なくなることを防ぐためにハラスメントというものが何なのかの意識の統一を図るために、ハラスメントアドバイザーによるハラスメント防止研修を行った。グレーゾーンにあるハラスメントに対して、出演者が我慢したりすることでハラスメントが進行しアクシデントが生じるのを防ぐためにハラスメント相談窓口（メールフォーム）を設置して気軽に相談してもらう環境を整えた。ハラスメントアドバイザーに稽古や会場での創作に立ち会ってもらうことで、スタッフや演出家・プロデューサーから出演者のハラスメントを抑止した。 
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	ハラスメント講座を受講したことのない者や、企業で受講している者がおり、それぞれのハラスメントに対するラインがバラバラである中で、ハラスメント講座を行うことでハラスメントかそうでないかの判断基準が統一できたことにより、安心して創作に対するディスカッションが行えた。また、相談窓口を設けることで運営側が気付かないうちにハラスメントが発生していたかもしれないという恐れがなくなって安心してクリエイションが行えた。

分野	演劇
団体名	TeXi's
補助事業名	舞台 TeXi's「ファジー『theirs』『ours』」の制作・稽古期間におけるハラスメント／リスペクト講習の実施と専門家の配置
具体的な内容	上級ハラスメント対策アドバイザーを招き、キャスト・スタッフが参加するハラスメント／リスペクト講習を実施した。また、座組の外部相談窓口役割と、創作現場におけるハラスメント性を公演毎に振り返る演出家のためのメンターを依頼した。 団体名：TeXi's 代表者役職：代表 氏名：手塚 彩乃 風通しの良い稽古場のためのリスペクト・コミュニケーション研修の実施をしました。 まず、なぜハラスメント防止研修が必要なのかの前提を全体で確かめ認識の共有を行いました。 ハラスメントがおきないために重要なことが「心理的安全性」であり、どのような状況で「心理的安全性」が確保されるかを5グループに分かれディスカッションを行いました。 ・頭から意見を否定されない ・憶測を産まない ・演出家の沈黙がない などさまざまな意見が出ました。 "伝えたいこと"と"伝わったこと"を一致させることをコミュニケーションと指すといった、コミュニケーションの基本構造についてもお話いただきました。 リスペクト・コミュニケーション研修は約3時間ほどで終了しました。 最後の質疑応答でも質問が飛び交い不安に共有が行われ全体で考える時間があり有意義な時間でした。 また、公演終了後の振り返りでも講師にメンターとして不安や迷いの相談をすることができ、より良い創作環境を整えることが可能となりました。
ハラスメント防止対策の取組を実施したことによる成果・効果	「男女二元論の解体」というテーマを掲げた創作において、個人の価値観や経験を引き出しにすることも多々あったが、リスペクト講習を踏まえて、それに伴うリスクに全員が自覚的になり、相手を尊重した適切なコミュニケーションを取り合うことができた。